

日本語教師
のための

実践・ 漢字指導

濱川祐紀代 [編著]



日本語教師
のための

実践・ 漢字指導

濱川祐紀代〔編著〕



は じ め に

みなさんは漢字をどのように教えているでしょうか。どのように学んできたでしょうか。漢字学習というと、学習者自身の努力に委ねられることが多いですし、教師も自分自身の学習経験に基づくオーソドックスな指導方法をとることが多いのではないのでしょうか。しかし、言うまでもなく日本語学習者のニーズやレディネスは多様化しており、現在それぞれに合った指導・支援が求められています。教師への要求が多岐にわたっているにも関わらず、漢字指導に関する具体的事例がまとめられているような書籍はあまり多くありません。漢字指導に関して、情報を共有できる場としては、JSL 漢字学習研究会(<http://jsl-kanji.com>)があり、年4・5回程度開催されています(2010年現在)。しかし、場所や曜日の問題から、研究会に参加できる人が限られているのが現状です。そこで、もっと多くの人と情報を共有したい、情報交流を図りたいと思い、本書を出版することにしました。

本書は漢字指導のためのアイデアや情報を詰め込んだ素材集です。ですから、機関別特徴よりも、実践の方法や内容に注目し、みなさんが漢字を指導したり、漢字学習のサポートをしたりとする際のヒントにしていただければ幸いです。そしていつかみなさんの実践についても伺える日が来るのを楽しみにしています。

最後に、本書は、執筆者を含め、多くの方々にご協力いただきました。文献一覧には池田幸弘さん、ガリーナ・ヴォロビヨワさん、関麻由美さん、松下達彦さん、谷田部由木子さん、山田京子さん、ほか多くの方から情報を提供いただきました。また池絵里子さん、池田幸弘さん、白戸順子さん、野村陽子さん、藤田裕子さん、和美智子さんには大量の原稿に目を通していただいたうえ、貴重なコメントを寄せていただきました。さらに、くろしお出版の市川麻里子さんの励ましやご協力なくしては、このような形で世に出すことができませんでした。この場を借りて、関わってくださった皆さまに心から感謝申し上げます。

本書の構成

本書は、漢字指導に関する実践的側面・理論的側面の両方が掲載されています。また、学習者の漢字学習に関する気持ちなども掲載されています。

本書の構成は大きく5つに分かれています。

第1部 実践報告：初級レベルを対象にした実践例を8例、中級レベル以降を対象にした実践例を4例報告し、多様な学習者に向けたさまざまな教え方が掲載されています。

第2部 コラム：理論的な視点からまとめられたコラムです。漢字の難しさは何か、どう評価したらいいかなどについて、短くわかりやすくまとめてあります。

第3部 学習者の声：学習者が漢字学習をどのように捉えていたか、教師に何を求めているのかを知ることができます。

第4部 教室活動紹介：教室で使える活動例とその手順を具体的に説明し、紹介しています。準備さえしてあれば短い時間で楽しめる活動が多いので、漢字指導のための時間があまり作れない現場でも試みやすいでしょう。

第5部 リソース情報：漢字指導に必要な情報として、漢字学習用教材や漢字辞典、漢字学習用web教材の一覧を挙げています。また、漢字学習・教育研究の手がかりになるよう、研究論文の文献一覧を掲載しました。

本書は最初から最後までを順に一度に読む必要はありません。例えば、「初級の漢字クラスを任されたけど、どう運営したらいいかわからない」という場合は、第1部実践報告を読んでみてください。

ご自身の現場で実践できる部分があるか、具体的に考えながら読んでいただき、ご自身の現場用にアレンジしていただければと思います。

CONTENTS

目次

■はじめに ii | ■本書の構成 iii

第1部 | 実践報告

第1章	自分と漢字を結ぶ漢字学習の試み	西山友恵	1
第2章	海外在住の幼児・児童のための漢字教育	清水秀子	12
第3章	初級からの辞書引き指導の試み	濱川祐紀代	29
	ー日本語学習の幅を広げるためにー		
第4章	日常生活の中で見つけた漢字を共有するクラス活動	関麻由美	45
	ー漢字圏と非漢字圏の学習者がともに学べる活動をめざしてー		
第5章	コーチング手法を用いた漢字指導	高橋秀雄・山本栄子	58
	ー5か月の集中プログラムでー		
第6章	「何ができるか」という視点に基づく漢字授業	有山優樹・落合知香	72
第7章	専門漢字語彙を学習する授業	谷田部由木子	86
	ー非漢字圏大学院留学生のための「海洋漢字・読解クラス」ー		
第8章	漢字で教える日本語	佐藤啓子	100
	ー外国人ろう者の場合ー		
第9章	『Intermediate Kanji Book』を用いた 中級漢字クラスのヒント	杉浦千里	

10章	概念地図を用いた漢字語彙学習	徳弘康代	129
-----	----------------	------	-----

11章	日本人サポータを活用した中級以降の漢字指導の試み	向井留実子・高橋志野	141
-----	--------------------------	------------	-----

12章	漢字知識の整理と会話作成タスク	濱川祐紀代	156
	ー中級レベルを対象にした自律学習への架け橋ー		

第1部 | コラム

コラム1	漢字学習の困難点ー母語や文化圏による違いー	171
コラム2	漢字学習の方法・アプローチ ー学習者の特性、学習スタイルなどを考えるー	175
コラム3	漢字力の評価法ー知識と運用力の評価ー	180
コラム4	漢字テストの作り方ー語彙のテストとしてー	加納千恵子 184
コラム5	中国語母語話者にとっての漢字語彙 ー意味・用法のずれー	小室リー郁子 190

第2部 | 学習者の声

1. 中国語母語話者の気持ち	200	4. モンゴル語母語話者の気持ち	206
2. 韓国語母語話者の気持ち	202	5. ポーランド語母語話者の気持ち	208
3. タイ語母語話者の気持ち	204	6. ロシア語母語話者の気持ち	210

第4部 | 教室活動紹介

① 組合せ漢字	212	⑤ これはなに?	224
② 意味の仲間はどれ?	214	⑥ 材料はなに?	227
③ 送り仮名はなに?	217	⑦ いつも目にする漢字って?	230
④ "oyaji" とその仲間たち	220	⑧ 教室活動を充実させましょう	234
	福島育子・濱川祐紀代		濱川祐紀代

第1章

自分と漢字を結ぶ漢字学習の試み

西山 友恵

●実践校	東海大学別科日本語研修課程
●クラスの目的	1) 漢字の読み書きが正しくできる。 2) 漢字と語彙の量を増やす。 3) 今までに習った漢字を多角的に整理する。 4) さまざまな活動を通して漢字を自分のものにしていく。
●学習者数	18名(タイ、韓国、アメリカ、ロシア、アイスランド、コロンビア、インドネシア、フィンランド、カンボジア)
●学習者のレベル・国籍	初中級後半・非漢字圏(韓国含む多国籍クラス)
●使用教材	1) 『みんなの日本語初級Ⅱ 漢字練習帳 ¹⁾ 』(東京国際日本語学院(編著)(2004) スリーエーネットワーク) 2) <i>Let's Learn Kanji: An Introduction to Radicals, Components, and 250 Very Basic Kanji</i> (Mitamura, Joyce Yumi & Yasuko Kosaka Mitamura (1997) Kodansha International)
●準備するもの	漢字カード ²⁾ 、漢字フラッシュカード ³⁾ 、自作プリント(今年の漢字、書道体験、部首の説明プリント)、復習テスト

¹⁾ 教科書選定の理由として、『みんなの日本語Ⅰ 漢字練習帳』を初級の漢字クラスで使用しているため、教科書の連続を念頭に置き、『みんなの日本語Ⅱ 漢字練習帳』(以下、『練習帳Ⅱ』とする)を使用している。

²⁾ Microsoft WORDを使用し、A4用紙に500ポイントで一字ずつ作成する。それを割付印刷で4分の1にし、2字を糊付けしたものを漢字カードと呼ぶ。

³⁾ Microsoft WORDを使用し、『練習帳Ⅱ』で提出されている熟語をA4用紙に170ポイントの3字サイズで上下になるよう2行作成する。それを半分に折り、糊付けしたものを漢字フラッシュカードと呼ぶ。

1. はじめに

東海大学別科日本語研修課程(以下、別科とする)の学生は、東海大学・東海大学大学院進学を目指している学生と協定大学との交換留学生が主である。別科の日本語の授業は11クラスに分けられており、約150名が在籍している。本稿で報告するクラスは初中級後半のレベルを対象とした漢字クラスである。

このクラスでは、授業目的を達成するために、さまざまな角度から既習漢字を再生する活動を授業に取り入れた。同時に無理のない範囲での語彙の拡張と既習漢字を整理する活動を行った。教師から学生へという一方向の関係ではなく、教室全体で学び合うことを考え、漢字クラスをデザインし実践した。

2. 授業の概要

2.1 開講期間とスケジュール

授業は2008年秋学期10月1日から翌年1月21日にかけて、1週間に1回、1コマ90分、全13回実施した。この学期の13回のスケジュールは以下の表1の通り⁴である。

表1 スケジュール

回	授業内容
1	Introduction、26課
2	27課28課
3	29課30課
4	31課32課
5	【復習テスト1】、33課34課
6	35課36課
7	37課38課
8	【復習テスト2】、39課40課
9	41課42課
10	43課44課、今年の漢字
11	【復習テスト3】、45課46課
12	47課48課
13	書道体験

⁴ 当初の予定では、教科書の50課全てを終え復習テストも4回実施することになっていたが、最終回は学習者のリクエストにより、書道体験を行った。その代わりとして、自習が出来るよう49課と50課の筆順表と読み・熟語のプリントを配布し課題とした。

